

葉を落とした防風林が雪化粧する季節になりました。よく晴れた日の朝、防風林の中に耳を澄ましてみましょう。小鳥たちがさえずり、枝をつつく音がすかに聞こえてきます。時にタタタタターという、強く木をドラミングする音―ドラムを細かくたたくような音―を耳にするでしょう。



アカゲラ

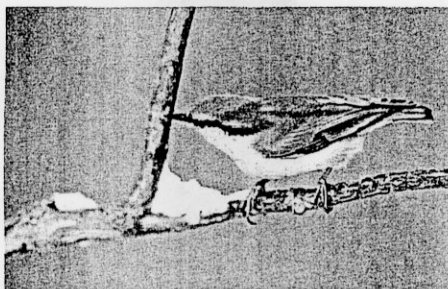
冬の防風林

ドラミングが語る

多様な生きものの世界

ではよく目立つので、みなさんも見かけたことがあるのではないのでしょうか。キョッキョッキョと声を出して枝から枝へ跳ね回り、木をつついて樹皮を剥がしたり、穴をあけたりして、中にいる虫を舌でなめとります。

さて、アカゲラは春になるとオスとメスはつがいになり、巣を作り、子育てに励みます。巣は、自らのくちばしで木に穴をあけてつくりまします。この巣穴は、どの木にもあけることができるわけではありません。まず、胸の高さで三〇センチメートルほどの太さがなければ、幹の中に六羽ほどのヒナが育つの広さの穴をあけることはできません。そして、穴があけやすいの



ゴジュウカラ

エサとなる昆虫類がたくさんいることを示していると、ともに、その他の小鳥たちが暮らしていることの証で、そこに生きものの多様な森林生態系が広がっていることの象徴なのです。

日々寒さが続く季節ですが、冬の木

は、立ち枯れている木や、幹の中に菌などが進入して腐っている部分がある木です。これらの木は一見不要のように思われますが、アカゲラにとっては大切な営巣木なのです。アカゲラは、毎年新しい巣をつくりまします。従って、翌年には別の小鳥―シジュウカラやゴジュウカラなど―自分で穴を掘ることのできない小鳥や時にへびなどが、アカゲラが掘った穴を巣やねぐらに利用します。

立から聞こえる小鳥たちの声に耳を傾け、森の中の命の営みを感じてみませんか？

(石狩浜海浜植物保護センター
前野 華子)

写真：石狩浜海浜植物保護センター資料



いしかり博物誌

Natural History 第28回

■文化財・博物館開設準備室 ☎0133-72-6123
E-mail: bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp